

令和7年9月29日（月）全校朝会校長講話
秋の読書は、きっと素敵

児童のみなさん、まだ暑い日はありますが、だんだんと涼しくなって、夏の日差しを懐かしむような感じになってきました。秋になってきましたね。

さて、「○○の秋」と言えば、何を思い浮かべますか。校長先生が思い浮かべるのは「食欲の秋」です。とは言っても、校長先生の食欲は、春も夏も冬も、秋と変わらず、いっぱいあります。

変わらず、と言えば、読書も同じです。一年を通して、いろいろな本に親しむことは、とてもいいことです。では、なぜ「読書の秋」と言われるのでしょうか。一つの理由として、秋の夜は月の光がきれいだから、というのがあります。秋の空は夏よりも乾いているため、空気が澄んで見えます。また、秋の月は、夏よりも空の高いところを回ります。そのため、月明かりが夏のときよりも明るいのです。昔の人たちは、秋の長い夜に、月の光や、ろうそくの明かりで読書をしたのだそうです。涼しい秋の清々しい気分とろうそくの温かな光、また、澄んだ空に輝く月明かり。いかにも、読書をしたくなる季節が秋、と言えますね。

今の私たちの生活では、一年を通して、いつでも読書に親しむことができますが、より心を落ち着けて読書ができる季節が、秋なのだと校長先生は思います。お話、終わります。